

# 教師が使う I C T 研修 1 ( 1 部 )

## 授業における I C T 活用

教師が使うICT研修1では、「授業におけるICT活用」というテーマで、ICTを活用した授業をイメージします。

(★)

## 研修のゴール

**授業でのICT活用のねらいを知る。**

この研修では、「授業でのICT活用のねらいを知る。」を研修のゴールとします。  
(★)

## 授業におけるICT活用

### (1) 学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるためのICT活用

【社会科】  
衛星画像や航空写真を拡大提示



では、授業でICT活用のねらいを四つ述べます。  
一つ目は「学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるため」です。  
例えば、社会科で衛星画像や航空写真を拡大提示して、日本や世界の地理的事象に対する関心を高める目的で活用します。

(★)

## 授業におけるICT活用

### (2) 児童生徒一人ひとりに課題を明確につかませるためのICT活用

#### 【算数科】

児童がノートに描いた見取り図や展開図をプロジェクタや実物投影機等で拡大提示



二つ目は、「児童生徒一人ひとりに課題を明確につかませるため」です。  
例えば、児童がノートに描いた見取り図や展開図をプロジェクタや実物投影機等で拡大提示して、いろいろな考えを共有することができます。

(★)

## 授業におけるICT活用

(3) 分かりやすく説明したり、児童生徒の思考や理解を深めたりするためのICT活用

### 【家庭科】

包丁やミシンなどを実演して、手元の動きを拡大して提示



三つ目は「分かりやすく説明したり、児童生徒の思考や理解を深めたりするため」です。

例えば、家庭科でプロジェクタや実物投影機等を活用して、包丁やミシンなどを実演し、手元の動きを拡大提示します。そうすることで、調理や製作に必要な用具の安全な取り扱いや手順を分かりやすく理解させることができます。

(★)

授業におけるICT活用

(4) 学習内容をまとめる際に児童生徒の知識の定着を図るためのICT活用

【社会科】  
47都道府県の名称と位置を  
フラッシュ型教材で提示



四つ目は、「学習内容をまとめる際に児童生徒の知識の定着を図るため」です。例えば、フラッシュ型教材等を用いて、47都道府県の名称と位置を確実に理解できるようにします。

(★)

発問・指示と組み合わせる

提示だけでは効果は期待できない

焦点化

黒板と組み合わせる



ICTによる情報の提示は、板書の代わりになるものではない。

以上の4点のねらいをしっかりと理解し、授業で活用することが大切です。その際、次のことにも留意が必要です。

(★)一つは発問・指示と組み合わせることです。ただ、提示だけではICT活用の効果は期待できません。

活用するねらいを明確にして、指示や発問と組み合わせることではじめて効果が期待できます。

これを

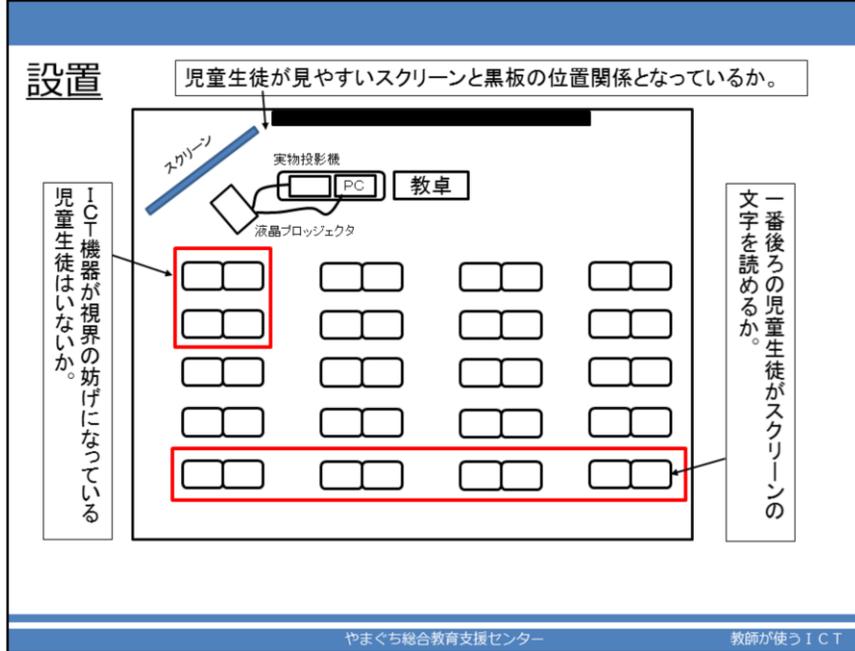
(★)「焦点化」といいます。

(★)もう一つは黒板と組み合わせることです。

ICT機器の活用は、従来の板書を中心とした授業を補完するものです。

従来どおり、板書はICT機器を活用した授業でも大変重要です。

(★)



では、実際にICT機器を授業で活用するときの教室環境を考えてみましょう。プロジェクタや電子黒板を活用する場合、特に気を付けなければならないことは、すべての児童生徒にとって、スクリーンや黒板が見えやすくなっているかということです。

位置関係については留意しましょう。

(★)

2部ではICT機器を日常的に使うための方法について考えていきましょう。

2部では、ICT機器を日常的に使うための方法について考えていきましょう。  
(★)